



杉下小学校の校舎

## Q 小中学校の通学区域について

## A 適正な通学区の実現を

齊藤 芳久 議員

- 質問一** 今後の児童・生徒数の推移の考え方について。
- 二** 小中一貫教育の目標をどのように捉えているか。
- 三** 通学区の再編が小中一貫教育への対応であり、通学区における諸問題の解決策には見えないが、現在の通学区の諸問題と対応は。
- 四** 学区審議会の答申を今後どのように扱うのか。
- 答弁一（教育委員長）** 平成30年までの児童数は緩やかに減少し、生徒数は緩やかに増加することが推測できる。また、47年までの将来人口推計によると、総人口は今後数年増加傾向にあるが、数年後には年少人口が減少していくことが予想される。
- 二** 義務教育9年間を一つのまとまりと捉え、学力保証と基本的な

- 活習慣の定着や規範意識の育成を図ることを目標とする。
- 三** 小学校の卒業生が二つ以上の中学校に分かれる現状の通学区では、小中学校の連携体制が十分とれないという問題もあり、学区審議会の答申を受けて検討する。
- 四** 内容を十分精査し、適正な通学区等の実施と課題解決に向けた諸調整を進める。
- ◎その他の質問 大谷川ふるさと水辺整備事業は

## Q

## 子ども読書活動推進計画について

## A

## 読書環境の整備を推進する

五伝木隆幸 議員

- 質問一** 推進計画の成果について。
- 二** 取り組み状況と課題について。
- 三** 推進計画の見直しについて。
- 四** 子ども読書をさらに充実させるための取り組みについて。
- 答弁一（教育委員長）** ブックスタートや読み聞かせなど、本に親しむ環境づくりでは一定の成果を
- 上げているが、小学校5年生の1か月の平均読書量は4・8冊で全国平均の約半分、中学校2年生では2・3冊で全国平均の6割にとどまっている。
- 二** 朝の読書は小中学校各1校を除くすべての小中学校で実施している。子どもたちの身近に幅広い



- 種類の本があるよう読書環境を整えることが必要である。
- 三** 第2次子ども読書活動推進計画の策定を進め、読書冊数など数値目標を設定し、その達成に向けて読書環境の整備を推進する。
- 四** 子ども年齢や発達段階に応じた読書活動の充実を図る。将来的には、学校司書を常勤とし、学校間や市立図書館との間で資料検索や相互貸し借りが行われるシステムの構築をしたい。
- さらに図書館ホームページに子ども向けのページを開設し、子どもたちの読書意欲が向上する事業を推進する。